

誤飲をきっかけに始まった咳と痰が改善したケース

神定かおり

男性 60歳

【主訴】 誤飲とその後の咳と痰

【具体的内容】

食事の際の誤飲により、むせて咳込み苦しんだ。

落ちついた後も喉に引っ掛かりを感じるという。

その場は落ち着き、事なきを得たと思ったが翌日から激しい咳と痰を発症した。

【レメディー選択】

Sil : 30C/Free-p : 30C/ Bry : 30C/ Acon : 30C/Ant-t : 30C/Dros : 30C/Calen : 30C/Carb-v : 30C
/Apis30C

【選択の根拠】

Sil⇒喉の引っかかる感じに異物排出の No.1 レメディーであることから選択

Calen⇒キンセンカの中に自然のステロイド化合物が入っており治癒の促進のために選択

Free-p⇒初期の炎症の No.1 レメディーであること、大特徴である咳・気管支炎であることから選択

Acon⇒急性のショックという特徴から選択

Bry⇒空咳と症状がグズグズして病気を出し切れない時という特徴から選択

Ant-t⇒テーマが咳では死なないのだと知るであるとか、咳、痰が粘着質で切れにくいといった特徴から
選択。大特徴である呼吸困難・喘息の発作も考慮

Dros⇒ひどい咳が特徴であることから選択

Carb-v⇒咳が出続け酸欠という特徴から選択

Apis⇒水分が多い細胞組織に適合の特徴から

【経過】

喉に感じた引っかかり感は Sil ですぐに解消したものの、翌日から空咳が出始めたため Bry と Free-p で様子見。レメディー摂取後、痰が絡む咳に変化したため Acon・Dros・Ant-t・Calen を追加。

咳と痰は激しいものの痛みはなく苦しいとのことで Carb-v・Apis をさらに追加したところ

楽になったという。これらをリピートしながら4～5日後には完治。

以前であれば咳・痰となれば病院に行き薬を使用しても完治までにひと月はかかっていたので、レメディーを使用時は回復度合いがかなり速いことを実感できた。

【考察】

咳という症状は言い切れずに抑えた感情や、無理に飲み込んだ感情などが代わりに咳として出てくることから、本人の性格的などころや、幼少期に喘息を罹患している事も考慮し Ant-t をプラスして選択したことが症状を出し切ることに貢献したように思う。

また、痛みはなく苦しさを感ずるといったところから、気道の腫れを予測し、Apis の大特徴であるむくみ（浮腫）と一致するものと考え追加したところ、即効性を感じたとのことで元々むせたということがきっかけで始まった咳ではあるが、様々な要因を内在したケースであったように思う。

最初の症状の空咳に Bry を摂取後、痰を伴った咳に変化したことは一見すると悪化のように思えるが症状を出し切ることへの必要な過程であると思えたのは「症状はありがたい」という講義での学びが根底にある。その安心感の中で急性症状に対する苦しみを和らげることに功を成した。